



6
2021

発行所
大阪市中央区玉造2-24-22
カトリック大阪大司教区
広報委員会
郵便番号 540-0004
TEL (06) 6941-9700(代表)
TEL (06) 6946-3223(直通)
FAX (06) 6946-3224(直通)
E-mail: jho@osaka.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本紙
「点訳版」「音訳」
あります。〈無料〉
※ご希望の場合は
下記まで申込み
「点訳版(点字本)」
時報 ☎06-6946-3223(直通)
☎06-6946-3224(直通)
「音訳(テープ・デジ)」
山口さん ☎0798-34-4228

☆ ラジオ「信仰の時間」
山口武史神父
☆ 夙川ブロック
明石教会堅信式
広聴部員へのEメールアドレス=jho@osaka.catholic.jp

☆ イエスになろう生き方を求めて (4面)
☆ ユスト高山右近の生涯と信仰 (2面)
☆ 「生きる」―難民移住者 (3面)
☆ 「生きたる」―難民移住者 (5面)

「時報」原稿・
資料等の締切は
前々月末です。

教区ミサ動画配信の舞台裏 カメラの向こう



2020年のコロナ禍を機に、聖なる三日間からミサの動画配信をはじめた大阪教区。昨年7月号にその奮闘記を少し取り上げたが、一年経過した今、詳しい背景を配信担当者らに聞く。

ガラガラと音を立てながら台車を押し、大阪カトリック聖マリヤ大聖堂に向かう。翌日行われるミサのライブ配信のための機材を運ぶのだ。着いたらセットアップ開始。「この線はこれにつなげて」、「ケーブルは誰もつまずかないように床にテープで貼って」。

ライブ配信当日2時間前は最終確認と調整。「そっちのカメラ、もう少し右に向けてください。あ、行き過ぎ」、「手話通訳の方、もう少しカメラに近づいて。お三人の背丈に高さを合わせましょう」。

開始2分前。「待つてください、音が拾えない」。皆一瞬息を飲んで、調整を待つ。数秒が長く感じられる。

30秒前。「できました。配信準備完了。始めてください」、「それでは、入堂をお願いします……」。

右のようなドタバタ劇に興味をもつ方など果たしているのか? とも思ったが、これから宣教のために配信をやってみたいと考えている小教区の参考になる

ならと思います、これまでのことをまとめてみた。

動画配信を始めるまで

配信担当として主に動くのは教区本部事務局のIT担当職員。広報、労務担当職員数名もサポートしている。機材運びや配線の手伝いはシナピス(大阪教区社会活動センター)の難民移住者の方たち。

緊急事態宣言発令後、急遽行うことになった聖なる三日間の動画配信のために、配信の仕方を調べることから始まった。無料動画配信ソフト「OBS Studio」は使い方を勉強。動画配信サイトYouTubeのアカウント作成も初めて。

配信のための環境作り

短期間で、低コストで配信を行うことが出来るシステムを特別に設計、構築した。配信専用パソコン、家庭用ビデオカメラ、三脚など必要な物は購

入し、モニターや配信操作用のノートパソコン、IPカメラ(ネットワークカメラ)などは、余剰品となっていた古いものを再利用した。

一番のネックは通信環境だった。そもそも大阪カトリックの聖堂内にはインターネットに接続できる設備はなかった。唯一、カトリック受付にネット回線が通っていたので、当初はこれを利用して配信。配信のたびに受付から小聖堂まで100メートルほどのLANケーブルを引き、HUB(集線機器)に接続して各機器に配線。大変な作業だった。小聖堂内では無線LANも使用したが、

空調を稼働させると通信が不安定になって使用できなくなる事が判明。利用を断念した。大聖堂での配信はケーブルを引き回す距離が長く、準備の負荷が大きくなるため、後に建物に配線工事をするまでは行うことができなかった。

abc 視覚で「聴く」情報

音声聞き取れない方にとって、配信内容を理解するのは困難だ。そのため、音声情報を視覚情報にかえてサポートする必要がある。配信当初は、テキストを数行ずつ画像にしたものを字幕として映像に合成するやり方を取っていた。だが、配信担当者一人でカメラの切り替えと音声調節をするかたわら、原稿どおりにテキスト画像一つひとつを変更していく作業には、なかなかの集中力を要した。

「病者・障がい者とともに歩むミサ(9/23)」を機に、教区聴覚障がい者(手話)ボランティア会と要約筆記グループ「エッファタ!」が加勢(昨年11月号参照)。教区公式行事のミサでは以前から、大聖堂の前方に手話通訳者が立つこと、スクリーンに「要約



▶動画配信担当者、モニター前でスタンバイ



▶手話通訳者と要約筆記グループ、ミサ前の打ち合わせの場面

筆記(話されている内容を要約して文字にする作業)のテキストを映し出すことが原則となっており、これまでもこの方たちがたずさわってきた。

ライブ配信では、要約筆記の連携作業に使われる「IPTalk」というソフトのテキスト映像を手話通訳者の映像とともに、ミサの映像に合成して映すことにした。ミサ前、テキストの内容などの入念な確認作業が行なわれる。

手話通訳者の立つ位置、背景スクリーンの色、要約筆記の文字色と背景色、配信画面上でのこれらのレイアウトなど、「視聴者」に読み取りやすい画面を目指している。次回配信の時には、そういった点にも注目していただければと思う。

▶2面に続く

前札幌教区司教 ペトロ地主敏夫名誉司教帰天



地主敏夫名誉司教は腸ヘルニア治療で入院中だったが、その後発症した肺炎のため、5月4日、入院先の

札幌厚生病院で帰天。90歳。北海道札幌市出身。1988年1月15日、司教に叙階され、2009年まで札幌教区長を務めた。在任期間中、日本カトリック司教協議会においては、教会行政法制委員長、典礼委員長、カトリック新聞担当などの各役職を歴任された。